

Oracle9i Developer Suite for Solaris Operating System (SPARC)

リリース・ノート

リリース 2 (9.0.2)

2003 年 6 月

部品番号 : J07622-02

目次

製品の名称	2
動作要件	2
Oracle9i Developer Suite 日本語環境での構成	3
プログラム・コンポーネントの日本語環境での構成	3
Oracle9i Developer Suite Patch Set	3
Oracle9i JDeveloper	3
日本語ドキュメント	3
Oracle9i Forms Developer	3
Oracle9i Reports Developer	3
既知の問題	4
インストールの問題	4
J2EE 開発版のインストールで設定されていない J2EE コンテナ	4
Root.sh の実行時の警告メッセージ	4
インストール時のパフォーマンス (オプション)	4
Oracle9i Developer Suite Documentation Library のインストール	4
英語版ドキュメントのインストール	4
Solaris プラットフォーム	5
Solaris7 へのインストールについて	5
サイレント・インストールと非対話型インストール	5
ブリインストール	6
レスポンス・ファイルのパラメータ	7
rwaddpage.sql を実行する前の手順	8
削除の問題	8
Oracle Universal Installer では全ファイルは削除されない	8
Oracle9i JDeveloper の問題	8
SCM: Version History Viewer を使用してマージ操作を実行できない (Bug2227925)	8
Oracle9i Forms Developer の問題	9
デバッグの連結を行った場合の異常終了	9
Oracle9i Reports Developer の問題	9
CLOB 列に対する処理	9
Windows 上で作成した Reports 定義ファイルの Solaris 環境への移行	9
Oracle9i Business Intelligence Beans の問題	9
Oracle9i XML Developer's Kit	9
動作要件とシステム要件	9
一般的な問題とその対処方法	9
ドキュメントの記載内容の誤り	10
製品の削除	10
製品 CD-ROM からの Oracle Universal Installer の使用	10
コンポーネントを削除できない	10

ORACLE®

Oracle は登録商標です。Oracle9i、Oracle MetaLink、Oracle Store、Oracle8i、Oracle9iAS Discoverer、PL/SQL および SQL*Plus は、オラクル社の商標または登録商標です。その他の名称は、各所有者の商標です。

Copyright © 2003 Oracle Corporation.
All Rights Reserved.

このドキュメントは、Oracle9i Developer Suite リリース 2 (9.0.2) と、その機能の記載内容との相違点を要約したものです。

関連項目： Oracle9i Developer Suite の各コンポーネントのリリース・ノートも参照してください。

リリース・ノートとその他のドキュメントの最新版については、次のサイトにある Oracle Technology Network を参照してください。

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ORACLE_HOME は、特に指定のない限り、Oracle9i Developer Suite をインストールする Oracle ホームの名前およびディレクトリを示します。

製品の名称

Oracle9i Developer Suite (Oracle9iDS) は、旧 Oracle Internet Developer Suite から名称変更されました。

Windows の場合、Oracle9i Developer Suite リリース 2 には次のコンポーネントが含まれます。

- Oracle9i JDeveloper
- Oracle9i Forms Developer (旧 Oracle Developer の Forms)
- Oracle9i Designer
- Oracle9i Software Configuration Manager (旧 Oracle Repository)
- Oracle9i Warehouse Builder
- Oracle9i Discoverer Administrator (旧 Oracle Discoverer Administration Edition。Oracle9i Discoverer Desktop を含む)
- Oracle9i Reports Developer (旧 Oracle Developer の Reports)

ただし、Oracle9i Developer Suite リリース 2 は、Windows 95/98/ME ではサポートされていません。

UNIX の場合、Oracle9i Developer Suite リリース 2 には次のコンポーネントが含まれます。

- Oracle9i JDeveloper
- Oracle9i Forms Developer (旧 Oracle Developer の Forms)
- Oracle9i Reports Developer (旧 Oracle Developer の Reports)

動作要件

動作要件に関する最新の情報は、次のサイトで確認できます。

<http://www.oracle.co.jp/products/system/index.html>

Oracle9i Developer Suite 日本語環境での構成

プログラム・コンポーネントの日本語環境での構成

Oracle9i Developer Suite Patch Set

Oracle9i Developer Suite Patch Set には、Oracle9i Forms、Oracle9i Reports、Oracle9i Discoverer に対する修正が含まれます。

Patch Set の適用に関しては、Oracle9i Developer Suite Patch Set CD に含まれるリリース・ノートを参照してください。

Oracle9i JDeveloper

Oracle9i JDeveloper 9.0.3 を利用するためには、Oracle9i Developer Suite のインストール CD とは別の Oracle9i JDeveloper 9.0.3 の CD でインストールする必要があります。インストール方法の詳細は、『Oracle9i JDeveloper 9.0.3 インストレーション・ガイド』を参照してください。

また、Oracle9i JDeveloper 9.0.2 を利用するためには、Oracle9i Developer Suite をインストール後、パッチを適用する必要があります。このパッチは Oracle9i Developer Suite でインストールされる Oracle9i JDeveloper に対してのみ適用できます。

このパッチは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。

パッチの適用手順は、次のとおりです。

1. 稼働中の製品がある場合は、すべて終了させてください。
2. Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD の次のディレクトリ配下のファイルを Oracle Home の該当ディレクトリに上書きコピーしてください。

JDeveloper/Additional

この作業により日本語ドキュメントもインストールされます。

日本語ドキュメント

Oracle9i Forms Developer

Oracle9i Forms Developer のドキュメントを次の手順に従ってインストールしてください。この手順では、製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD を使用します。

1. ドキュメント CD に含まれている次のディレクトリを \$ORACLE_HOME/forms90/ ディレクトリに上書きコピーします。

JDoc/Solaris/forms90/doc

Oracle9i Reports Developer

Oracle9i Reports Developer のドキュメントを次の手順に従ってインストールしてください。この手順では、製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD を使用します。

1. ドキュメント CD に含まれている次のディレクトリを \$ORACLE_HOME/reports/ ディレクトリに上書きコピーします。

JDoc/Solaris/reports/doc

既知の問題

この項は、次の部分に分かれています。

- [インストールの問題](#)
- [削除の問題](#)
- [Oracle9i JDeveloper の問題](#)
- [Oracle9i Forms Developer の問題](#)
- [Oracle9i Reports Developer の問題](#)
- [Oracle9i Business Intelligence Beans の問題](#)
- [Oracle9i XML Developer's Kit](#)

インストールの問題

J2EE 開発版のインストールで設定されていない J2EE コンテナ

次の問題は、J2EE 開発版のインストール・タイプでのみ発生します。

- **問題:** ORACLE_HOME/j2ee にある J2EE コンテナが interMedia アプリケーションをサポートするように設定されていません。

対処方法: interMedia を使用可能にするには、J2EE コンテナの CLASSPATH に ORACLE_HOME/ord/jlib ディレクトリを追加します。

- **問題:** ORACLE_HOME/j2ee にある J2EE コンテナが SOAP アプリケーションをサポートするように設定されていません。

対処方法: SOAP サポートを使用可能にするには、soap.ear を JDeveloper から J2EE コンテナに配置します。ORACLE_HOME/j2ee/home/config にある server.xml で次の行をアンコメントします。

```
<web-site path="./http-web-site.xml" />
```

- **問題:** ORACLE_HOME/j2ee の J2EE コンテナが HTTP リスナーとして設定されていません。

対処方法: ORACLE_HOME/j2ee にある J2EE コンテナを HTTP リスナーとして機能させるには、次の操作を行います。

1. ORACLE_HOME/j2ee/home/config/server.xml で、次の行をアンコメントします。

```
<web-site path="./http-web-site.xml" />
```

2. デフォルトでは、リスナーはポート「8888」を使用します。ORACLE_HOME/j2ee/home/config/http-web-site.xml のポート番号を変更して、他のアプリケーションと衝突しないようにする必要がある場合もあります。

Root.sh の実行時の警告メッセージ

UNIX プラットフォームでは、スクリプト root.sh を実行しているときに、警告メッセージが表示されます。このメッセージは、無視できます。

インストール時のパフォーマンス（オプション）

ウイルス保護プログラムの設定によっては、インストール時のパフォーマンスが低下することがあります。インストールを速くするには、Oracle9iDS をインストールする前に、ウイルス保護プログラムを停止しておく方法があります。

Oracle9i Developer Suite Documentation Library のインストール

英語版ドキュメントのインストール

英語版のドキュメントをインストールする場合、Windows および Solaris では、ドキュメント・ライブラリ CD-ROM からご使用のシステムにファイルをコピーするか、Oracle9i Developer Suite Disk 1 CD-ROM の Oracle Universal Installer を使用してファイルをインストールすることができます。

HP-UX および Linux では、ドキュメント・ライブラリ CD-ROM からご使用のシステムにファイルをコピーします。

Oracle9i Developer Suite Documentation Library をインストールする手順は、『Oracle9i Developer Suite インストール・ガイド』を参照してください。

Solaris プラットフォーム

Solaris プラットフォーム上で Oracle Universal Installer (OUI) を使用して Oracle9i Developer Suite Documentation Library をインストールする場合は、Oracle9i Developer Suite のインストールが正常に完了した後で、次の手順に従います。

1. Oracle9i Developer Suite Disk1 CD-ROM を挿入します。
2. Solaris シェル・プロンプトで、次のコマンドを順番に実行します。

```
% cd $HOME  
% /cdrom/cdrom0/Disk1/runInstaller
```
3. OUI ウィンドウで、「次へ」をクリックします。
4. Solaris シェル・プロンプトに戻り、次のコマンドを発行します。

```
% eject
```
5. Oracle9i Developer Suite Documentation Library CD-ROM を挿入します。
6. OUI ウィンドウに戻り、次のソース・パスを入力します。

```
/cdrom/cdrom0/stage/products.jar
```
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「インストール」をクリックします。

Solaris7 へのインストールについて

Solaris7 へインストールする場合、環境変数 LANG=ja が設定されている状態で Oracle Universal Installer を起動してインストールを行うと、インストール中のライブラリ作成時に次のようなエラーが発生します。

Make ファイル ../reports/lib/ins_reports.mk のターゲット bld_install を起動中にエラーが発生しました。

Make ファイル ../reports/lib/ins_reports.mk のターゲット runm_install を起動中にエラーが発生しました。

Make ファイル ../reports/lib/ins_reports.mk のターゲット conv_install を起動中にエラーが発生しました。

Make ファイル ../reports/lib/ins_reports.mk のターゲット genm_install を起動中にエラーが発生しました。

Make ファイル ../reports/lib/ins_reports.mk のターゲット desm_install を起動中にエラーが発生しました。

このエラーを回避するには、環境変数 LANG=C に設定してインストールを行ってください。

その際、日本語環境をインストールするには、Product Language の選択で、明示的に Japanese を選択する必要があります。

サイレント・インストールと非対話型インストール

Oracle9iDS には、2通りの非対話型インストールがあります。

- **サイレント・インストール**: 実行する場合は、Oracle Universal Installer でレスポンス・ファイルを使用し、-silent フラグを指定します。インストール画面は表示されません。インストーラは、インストールからターミナル・ウィンドウおよび silentInstall.log ファイルへと出力を生成します。
- **非対話型インストール**: 実行する場合は、Oracle Universal Installer でレスポンス・ファイルを使用しますが、-silent フラグは指定しません。特定のウィンドウを選択して非表示にし、その他のウィンドウのみを画面に表示できます。

レスポンス・ファイルは、通常はインストール・ダイアログで取得される問合せの応答を含む単純なテキスト・ファイルです。Oracle9iDS には、インストールのタイプによって異なるレスポンス・ファイルがあります。これらのファイルは、Oracle9iDS CD-ROM Disk1 に収録されています。レスポンス・ファイルは、サイレント・インストールまたは非対話型インストールに合わせて編集する必要があります。

ブライインストール

サイレント・インストールまたは非対話型インストールを開始する前に、ハードウェア要件およびソフトウェア要件や『Oracle9i Developer Suite インストール・ガイド』に記載されたブライインストール・タスクを確認してください。

Windows NT では、Windows システム・ファイルのインストールが完了していることを確認してください。UNIX プラットフォームでは、oraInventory ディレクトリが存在していることを確認してください。UNIX マシンに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、次のコマンドを入力してください。

1. `su`
2. `mkdir /var/opt/oracle`
3. `echo "inventory_loc=/local_location/oraInventory" >
/var/opt/oracle/oraInst.loc`

/local_location/oraInventory は、ご使用の Oracle Universal Installer のインベントリ・ディレクトリです。
4. `chown -R idsinstaller /var/opt/oracle`

idsinstaller は、Oracle9iDS のインストールを実行するユーザーです。
5. `exit`

サイレント・インストールまたは非対話型インストールを実行する手順は、次のとおりです。

1. システムに合わせて選択したレスポンス・ファイルをコピーします。

レスポンス・ファイルは、Oracle9iDS CD-ROM Disk1 の stage/Response に収録されています。

Windows には、次のレスポンス・ファイルがあります。
 - `oracle.ids.toplevel.development.J2EE.rsp`
 - `oracle.ids.toplevel.development.BI.rsp`
 - `oracle.ids.toplevel.development.RAD.rsp`
 - `oracle.ids.toplevel.development.Complete.rsp`
UNIX には、次のレスポンス・ファイルがあります。
 - `oracle.ids.toplevel.development.Minimum.rsp`
 - `oracle.ids.toplevel.development.Complete.rsp`
2. テキスト・エディタを使用して、システムのレスポンス・ファイルを編集し、システム固有の情報を追加します。レスポンス・ファイルのパラメータのリストについては、この項で後述します。

変数の値を指定して、インストールをカスタマイズする必要があります。レスポンス・ファイルに含まれる各変数には、コメントが付けられています。コメントにより変数タイプを識別できます。値は次のフォーマットで指定してください。

`string = "Sample Value"`
`Boolean=True or False`
`Number=1000`
`StringList=("StringValue 1", "StringValue 2")`

<必須の値>として定められた値は、サイレント・インストールで指定する必要があります。

インストールを開始する前に、使用するレスポンス・ファイルの変数値からコメントを削除してください。
3. UNIX の場合：次のコマンドを入力して、作業するマシンの表示設定を行ってください。

`setenv DISPLAY your_machine:0.0`
4. `setup.exe` または `runInstaller` が収録されている Disk1 のルートにナビゲートします。
5. コマンド・プロンプト・ウィンドウでインストーラを起動し、パラメータとして使用するレスポンス・ファイルのフル・パスを指定します。たとえば、次のように指定します。
 - Windows の場合：`setup [-silent] -responseFile /<local_location>/oracle.ids.toplevel.development.<InstallType>.rsp`

- UNIX の場合 : `runInstaller [-silent] -responseFile /<local_location>/oracle.ids.toplevel.development.<InstallType>.rsp`

不適切または不完全なレスポンス・ファイルを使用してサイレント・インストールまたは非対話型インストールを実行したり、インストーラでディスク領域不足などのエラーが発生すると、インストールが失敗します。レスポンス・ファイルを指定せずに非対話型インストールを実行する場合も、インストールが失敗します。

コンテキスト、フォーマット、型が不適切な変数の値は、値が指定されていないものとして扱われます。セクションの外にある変数は無視されます。

サイレント・インストールまたは非対話型インストールの成功や失敗は、`installActions.log` に記録されます。また、サイレント・インストールでは `silentInstall.log` が作成されます。このログ・ファイルは、インストール中に `oraInventory` または `Inventory` ディレクトリに作成されます。サイレント・インストールまたは非対話型インストールが失敗した場合は、インストールの実行中に残ったすべてのファイルを完全に削除する必要があります。

6. UNIX の場合 : `root.sh` スクリプトを実行します。

`root.sh` スクリプトを実行する手順は、次のとおりです。

- ルート・ユーザーとしてログオンします。
- Oracle ホーム・ディレクトリで `root.sh` スクリプトを実行します。
- ルート・ユーザーを終了します。
- サイレント・インストールの場合 : サイレント・インストールの完了後に `root.sh` スクリプトを実行する必要があります。
- 非対話型インストールの場合 : Oracle9iDS の非対話型インストール中に、インストーラが `root.sh` スクリプトの実行を要求します。「Finished running generic part of the root.sh script」や「Now product-specific root actions will be performed」というメッセージが表示されたら、ルート・ユーザーを終了してインストール画面に戻ってください。

`root.sh` スクリプトにより、`ORACLE_OWNER`、`ORACLE_HOME`、`ORACLE_SID` の環境変数の設定やローカル `bin` ディレクトリのフル・パスが検出されます。デフォルトを受け入れたら、異なるローカル `bin` ディレクトリに変更したりできます。

レスポンス・ファイルのパラメータ

サイレント・インストールまたは非対話型インストールに使用するパラメータやその一般的な値は、次のとおりです。

`UNIX_GROUP_NAME="dba"` (またはインベントリ・ディレクトリに設定した UNIX グループ)

`FROM_LOCATION="/<shiphome_location>/Disk1/stage/products.jar"`

`FROM_LOCATION_CD_LABEL="Oracle9i Developer Suite ###.##"` (注意 : CD-ROM からインストールを実行する場合は、このパラメータに値を入力してください)

`ORACLE_HOME="/<local_location>/oracle"`

`SHOW_SPLASH_SCREEN=true`

`SHOW_WELCOME_PAGE=false`

`SHOW_COMPONENT_LOCATIONS_PAGE=false`

`SHOW_CUSTOM_TREE_PAGE=false`

`SHOW_SUMMARY_PAGE=false`

`SHOW_INSTALL_PROGRESS_PAGE=true`

`SHOW_REQUIRED_CONFIG_TOOL_PAGE=false`

`SHOW_OPTIONAL_CONFIG_TOOL_PAGE=false`

`SHOW_RELEASE_NOTES=false`

`SHOW_ROOTSH_CONFIRMATION=false`

`SHOW_END_SESSION_PAGE=false`

`SHOW_EXIT_CONFIRMATION=false`

NEXT_SESSION=false

NEXT_SESSION_ON_FAIL=false

SHOW_DEINSTALL_CONFIRMATION=false

SHOW_DEINSTALL_PROGRESS=true

LOCATION_FOR_DISK2="/<shiphome_location>/Disk1/stage/products.jar"

rwaddpage.sql を実行する前の手順

Configuration Assistant の実行に失敗して rwaddpag.sql スクリプトを流す必要がある場合は、その前に不完全にインストールされた状態になっている Oracle9i Reports Security ページとプロバイダを Oracle9iAS Portal から削除する必要があります。

Oracle9i Reports Security ページの削除手順：

1. Oracle9iAS Portal にログインします。
2. ビルダー・リンクをクリックします。
3. ナビゲータ・リンクをクリックします。
4. Portal 設計時ページの横のページ・グループのコンテンツ・リンクをクリックします。
5. ページ・リンクをクリックします。
6. Oracle Reports Security ページに対しての削除リンクをクリックします。
7. 削除される項目を充分確認し、正しければ確認ダイアログに対して「はい」をクリックします。これで Reports Security ページが削除されます。

Oracle9i Reports Security プロバイダの削除手順：

1. Oracle9iAS Portal にログインします。
2. ビルダーリンクをクリックします。
3. 構築リンクをクリックし、構築タブに移動します。
4. プロバイダ・ポートレットで、名前フィールドに ORACLE REPORTS SECURITY と入力します。
5. 削除をクリックします。これで Oracle Reports Security プロバイダが削除されます。

削除の問題

Oracle Universal Installer では全ファイルは削除されない

Oracle Universal Installer で削除しても、すべてのファイルとディレクトリは削除されません。ORACLE_HOME に残っているファイルとディレクトリは、手動で削除する必要があります。削除の詳細は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

Oracle9i JDeveloper の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i JDeveloper リリース・ノート』も参照してください。

SCM: Version History Viewer を使用してマージ操作を実行できない (Bug2227925)

問題点：Version History Viewer でマージ操作を実行した際に、次のエラーが発生する場合があります。
java.lang.IllegalArgumentException: setRoot: Null Filename

回避策：JDeveloper からではなく、Repository Object Navigator からマージ操作を実行してください。

Oracle9i Forms Developer の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i Forms Developer リリース・ノート』も参照してください。

デバッグの連結を行った場合の異常終了

Oracle9iAS Forms Services 上で実行されているフォーム・アプリケーションに対して Solaris 環境の Oracle9i Forms Builder から、デバッグの連結を行うためにデバッグの連結ダイアログに対してホスト名とポート番号を指定し OK を押すと、Forms Builder がコアダンプとなる場合があることが確認されています。Forms Builder からのフォーム・デバッグの実行は問題ありませんので、そちらを使用してください。

Oracle9i Reports Developer の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i Reports Developer リリース・ノート』も参照してください。

CLOB 列に対する処理

CLOB 列が含まれるスキーマに対してアプリケーションを構築し、アプリケーションからその CLOB 列に対して問合せを行うと、格納されているデータによっては FRM-40505 エラーが出力され、データを取り出すことが出来ません。

Windows 上で作成した Reports 定義ファイルの Solaris 環境への移行

Windows 上で作成した Reports モジュールを、RDF 形式で JA16EUC キャラクターセットの Solaris 環境の Reports Builder または Oracle9iAS Reports Services でオープンするとエラーが発生し、移行が正常に行われません。Windows 環境で作成された Reports モジュールを Solaris など JA16EUC キャラクターセットで動作する環境に移行する場合は次の方法をとってください。

1. Windows 上の Forms Builder で Reports 定義ファイルを XML 形式で保存します。
2. XML 形式で保存された Reports 定義ファイルを Solaris 環境にコピーします。XML 形式で保存された Reports 定義ファイルはテキスト・データですが FTP 等で転送する場合でも必ず binary モードで転送してください。
3. XML 形式で保存された Reports 定義ファイルを sjtoeuc コマンド等を使用して EUC に変換します。
4. 変換された Reports 定義ファイルを Solaris 上の Reports でオープンします。

Oracle9i Business Intelligence Beans の問題

別途提供されている『Oracle9i Business Intelligence Beans リリース・ノート』を参照してください。

Oracle9i XML Developer's Kit

動作要件とシステム要件

Oracle9i XML Developer's Kit (XDK) リリース 1 (9.0.1) では、新たに次のサポートが提供されています。

- Oracle Schema Processor は、W3C Schema の正式な推奨事項に対応しています。
- XSQL Servlet は、Apache FOP 0.18 に対応しています。

一般的な問題とその対処方法

Oracle9i XML Developer's Kit (XDK) リリース 1 (9.0.1) では、新たに次のサポートとオプションが提供されています。

- SourceViewer Bean は、内部 DTD をサポートします。
- XSQL Servlet
 - 1 つの SQL 文内で、複数のパラメータ値の設定をサポートします。
 - <xsql:include-owa> にパフォーマンスを改善する新しいオプションが用意されています。
 - 新しい Airport SOAP Service デモが用意されています。
 - CLOB と VARCHAR2 列からの簡単な XML の挿入をサポートしています。
- XSQL Processor

XSLT Processor for Java は、スレッドセーフです。

ドキュメントの記載内容の誤り

『Oracle9i Application Developer's Guide - XML Release 1 (9.0.1)』の第5章と第6章の更新版は、次の OTN サイトから入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

製品の削除

製品 CD-ROM からの Oracle Universal Installer の使用

UNIX プラットフォームでは、Oracle Universal Installer (OUI) がインストールの一部としてインストールされている場合と、インストールされていない場合があります。Oracle Universal Installer がインストールの一部としてインストールされていない場合に製品を削除するには、その製品のインストール用 CD-ROM から Oracle Universal Installer を実行する方法以外ありません。Oracle Universal Installer を起動する手順は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

コンポーネントを削除できない

『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』の説明のとおり、製品全体（たとえば、Oracle9i Developer Suite または Oracle9i Application Server）を削除できますが、製品の個別のコンポーネント（たとえば、Oracle9i Forms Developer または Oracle9iAS Containers for J2EE）のみを削除することはできません。Oracle Universal Installer では、Oracle9i Developer Suite コンポーネントを個別に選択して削除することはできません。